



# エネファーム(LPG仕様)の モデルチェンジ

4月1日より、当社は家庭用燃料電池であるエネファーム(LPG仕様)のモデルチェンジ機の販売を開始した。エネファームは2009年7月の発売後、初めてのモデルチェンジ実施となり、従来機からの主な変更点は、①定格出力の見直し(750W→700W) ②発電効率の向上(定格出力時35%→37%) ③販売機種・希望小売価格の見直しである。

エネファームの出力範囲である300W～700Wのレンジで全般的に発電効率を向上させており、定格時の出力減を補う運転性能の向上を実現している。併せて、各種エラー低減対策を施しており、信頼性の向上を図るものである。

販売機種については、従来より1機種減らして、標準仕様(暖房あり)と準寒冷地仕様の2機種とした。希望小売価格は、従来機より60万円下げて270万円(税込)に設定している。

当社では、2009年・2010年の2年間で約2,200台のエネファームを販売しているが、2011年度は、本モデルチェンジ機のリリースおよび10月に予定している固体酸化物形燃料電池(SOFC)の商品機発売により、さらなる拡販を図っていく。

(システムインテグレート推進事業部 新エネルギー総括グループ 天野 敏康)

## <2011年度 エネファーム製品仕様>



エネファーム(モデルチェンジ機)

	LPG仕様 (モデルチェンジ機)		都市ガス仕様
	標準 (暖房付)	準寒冷地 仕様	標準 (暖房付)
発電ユニット 型式名	FCP-070CPA2		FCP-070CNA2(EC)
貯湯ユニット 型式名	FCG-201-DRT2	FCG-201-DT2	FCG-201-DR
定格出力	700W		700W
発電効率	37%		35%
排熱回収効率	50%		45%
総合効率	87%		80%
運転方式	学習運転(DSS)		連続運転
バックアップ ボイラ能力	24号		24号
運転範囲温度	-5℃～43℃	-10℃～43℃	-5℃～43℃
希望小売価格 (税込)	270万円	280万円	270万円



# 「東京・杉並水素ステーション」の運用開始

2010年12月15日、当社は水素供給・利用技術研究組合 (HySUT) が経済産業省の「水素利用社会システム構築実証事業」として実施した「水素ハイウェイプロジェクト」の一環として、東京都杉並区に水素ステーションを建設し、運用を開始した。当社では、既に横浜・旭水素ステーションおよび北九州水素ステーションの運用を行っており、昨年末で運用を終了した船橋水素ステーション (移動式) を含めると、今回が4箇所目の水素ステーションになる。

本ステーションは、製油所などで製造した高圧水素ガスを水素カードルで受け入れ、燃料電池自動車に水素を充填するオフサイト型水素ステーションであり、都心と羽田空港間を繋ぐ我が国初の高速道路経由での燃料電池バス定期営業運行、および都心と羽田空港／成田空港間のハイヤーサービスの拠点として運用している。

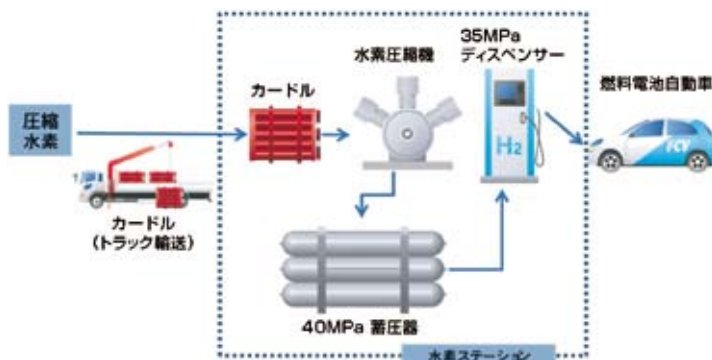
また、本年度より5年間の計画で、水素供給インフラの商用化を目指してHySUTが実施する「地域水素供給インフラ技術・社会実証」プロジェクト (NEDO 事業) において、より実使用に近い条件での実証を開始した。

当社は、水素エネルギーによる低炭素社会の実現に向け、本プロジェクトへの参加を通して水素ステーションの運用技術の確立に努めるとともに、2015年の燃料電池自動車の普及開始に向け、さらに水素供給インフラの技術・社会基盤整備に努めて行く。

(研究開発企画部 水素事業化グループ 伊藤 恵造)



「東京・杉並水素ステーション」の外観 (出典: HySUT ホームページ)



水素ステーションのシステム構成 (出典: HySUT ホームページ)



水素カードルの受入れ